



## 子どもの権利条例と自治基本条例

「子どもの権利条例」では、「子どもの参加等の促進」や「子どもの視点に立った情報発信等」など、子どものまちづくりへの参加を進めていくことを定めています。

一方、市民自治によるまちづくりを進めるための基本的な考え方を定めた「札幌市自治基本条例」(平成19年4月施行)には、第24条で「青少年や子どものまちづくりの参加」を規定しており、子どもの権利条例はこの条文の具体化を目指すものです。

子ども自身の、地域への愛着やまちづくりに対する責任感を高くしていくためには、子どもの頃から、さまざまな機会に大人と一緒にまちづくりを体験することも必要です。

そうした環境をつくっていくことは、大人や社会の大切な役割といえます。

## 札幌市からの お知らせ

札幌市では、子どもの権利について、職員が地域に出向いて説明する出前講座を行っています。

- 10人くらいのグループ
- 市内に会場の確保をお願いします。
- 1か月くらい前にご連絡ください。

お申込みは下記の、子どもの権利推進課へ

子どもがきらりと輝くまちに

# 子どもの権利 ニュース

The Rights of the Child

第2号

平成22年2月発行

## 私たちの学校自慢

～ふるさとふじの子ども会議～

南区の藤野地区では、町内会、青少年育成委員会と同地区にある、藤野小学校、藤野南小学校、藤の沢小学校及び藤野中学校の4校の連携により、子どもたちが、地域の自然や歴史などについて学びながら、「ふるさとふじの子ども会議」として、「藤野の宝」について発表を行っています。

「ふるさとふじの子ども会議」は、子どもたちにとってかけがえのない「ふるさと」、藤野に対する郷土愛を育てようと「藤野の宝を見つけよう」をテーマに、平成16年度から開催されています。

6回目となる今回は、昨年12月5日(土)に、「私たちの学校自慢」と題して、4校の生徒の代表24人が、日ごろ自分たちの学校で行われている生徒会や児童会の取組などについて、訪れた学校やPTA、地域の方々を前に発表や意見交換

を行いました。

発表では、「動物の命のかがやき」「学校自慢」「生徒会活動」などについて、各学校の代表者の子どもたちが順番に、ポスターや写真などを使い、ときにはクイズ形式で、会場に問いかけながら、日ごろの取組や研究の成果を披露。

傍聴した地域の方から、「目に見えない心の中のもの、人と人とのつながりも宝だと、回を重ねるに従って感じるようになりまし



た。皆さんの考えや行動が、宝だと思っています。」

「知らないことがたくさんありました。外来種のことや改めて身近な問題だと感じました。」などと、感想が述べられました。

皆さんの地域の宝、子どもたちと一緒に探してみたいかがでしょうか。



### 各学校の発表から

#### 藤野小

環境破壊が進むとたくさんの動物が危機的状況になります。藤野に場面を移して考え、私たちのできることをしっかりとやるのが大切です。

#### 藤野南小

私たちの学校では、校内清掃や挨拶運動など児童会活動が活発。「花いっぱい藤野南」は児童と地域を結ぶ大切な取組です。

#### 藤の沢小

約50年前から続く「愛鳥祭」が自慢。野鳥や自然とのふれあいを大切にしています。鳥にちなんだ学級旗も作っています。

#### 藤野中

球技大会や合唱コンクールはクラスの団結力を高めます。プルタブ回収に取り組んでいます。皆さんの学校も一緒に始めませんか。

## 下水道科学館スプリングフェスタ2010

日時 3月13日(土)、14日(日)  
(時間はプログラムごとに異なります)  
場所 札幌市下水道科学館(北区麻生町8丁目1)  
参加方法 当日直接会場へ(一部定員あり)  
お問い合わせ 札幌市下水道科学館 ☎ 717-0046

下水道について楽しく学べるイベントです。先生のお話の他、クイズや工作教室などを行います。詳細は問い合わせ先へ。

## 子育てサロン in 円山ZOO

日時 3月25日(木) 10:00～15:00  
場所 札幌市円山動物園(中央区宮ヶ丘)  
参加方法 直接会場へ(一部、事前申込が必要)  
対象 乳幼児とその保護者  
お問い合わせ 北海道子連れプロジェクト ☎ 676-4222

ちょっとおしゃれな子育てサロン。カフェや手作り教室、キッズ向けプログラムなど盛りだくさん。

## 子どもたちが作る「札幌の歴史新聞」作品展

日時 3月23日(火)～4月4日(日)  
(3月23日 15:00から展示)  
場所 ふれあい広場  
(地下鉄大通駅コンコース:定期券売り場横)  
お問い合わせ 札幌市文化資料室 ☎ 521-0205

文化資料室の行事「札幌の歴史探検～歴史新聞をつくらう」に参加した子どもたちが作った歴史新聞を展示します。

## 報告展「にしおか魚組参上! 活動の記録2009」

日時 3月20日(土)～4月11日(日) 9:15～16:45  
月曜休館(祝日の場合、次の平日に移動)  
場所 札幌市豊平川さけ科学館  
(南区真駒内公園2-1)  
お問い合わせ 札幌市豊平川さけ科学館 ☎ 582-7555

西岡公園で行っている子どもたちの自然調査「にしおか魚組」の1年間の調査報告展を行います。

## 学校図書館ボランティア募集

募集期間 3月11日(木)～3月26日(金)  
応募要件 司書の資格を有する方、図書館や子どもにかかわるボランティア経験がある方などの要件があります。  
選考方法 書類審査及び面接  
お問い合わせ 札幌市教育委員会指導室 ☎ 211-3861

市立中学校の図書館で貸出業務の補助などを行います。申し込み方法など詳細はお問い合わせ先へ。

## 発行

札幌市子ども未来局 子ども育成部 子どもの権利推進課  
〒060-0051 札幌市中央区南1条東1丁目大通バスセンタービル1号館3階  
電話 011-211-2942 ファックス 011-211-2943  
ホームページ「子どもの権利ウェブ」 <http://www.city.sapporo.jp/kodomo/kenri/>  
Eメール [kodomo.kenri@city.sapporo.jp](mailto:kodomo.kenri@city.sapporo.jp)



「さっぽろ子どもの権利の日」記念イベント

# 子どもの輝き フェスティバル

昨年11月15日、「子どもの輝きフェスティバル」が開催され、子どもたちや親子連れなど、多くの市民が訪れました。このときに行われたシンポジウムでは、学校関係者や地域の方などが、子どもの体験・参加と子どもの育ちについて意見交換を行いました。



ののむらみずき  
パネリスト 野々村 瑞希さん

大人に、だめといわれたら子どもはあきらめるしかない。大人がだめかもしれないと思うことでも、やってみたら成功することもあるかもしれない。子どもの無限の可能性を大人が引き出してあげられればと思います。

むとうまさかず  
パネリスト 武藤 征一さん

にしむらただし  
パネリスト 西村 正さん

白石区ふるさと会では、学校や企業にお願いし、9年前より「白石でっち奉公」という取組を始めています。子どもたちは、大人の世話になったり、顔や名前を覚えられたりすることにより、社会も自分たちを見ているんだということを意識するようになってくると思います。子どもたちが肌で感じたことは、一生にとって非常に大切なものだと感じています。

自然や社会と触れ合いながら学ぶという各学校の取組に地域の方々が協力していただき、学校だけではできない豊かな活動が広がりつつあります。子どもの気持ちを、さまざまなものに向けていこうとするときに大切なのは、大人の方が子どもの心に近づいていき、まず、子どもたちとの関係づくりを行うことです。



いちかわけいこ  
コーディネーター 市川 啓子さん

子どもたちが、大人の輝きを後ろでしっかりと見ていて、そのことによって、子どもたち自身もまた、輝いていくのかという感想を持ちました。



うえだ  
上田市長のコメント

子どもがさまざまな場面に参加できるチャンスをつくるのが大事です。どうしたら子どもたちが一緒にこのまちの中で活動できるのかを、考えていこうというのが子どもの権利条例(※)です。

※正式名称：札幌市子どもの最善の利益を実現するための権利条例

## 地域で活躍する子どもたち

### 施設との交流を通して成長する



札幌市内にある159の児童会館・ミニ児童会館では、子ども運営委員会を設置し、子どもたち自身が、会館利用にあたってのルールづくりや行事の企画などに取り組んでいます。最近では、地域行事への参加や施設との交流、ボランティアなど、地域の一員としての活動も活発に行われています。

白石区にある東札幌児童会館では、子ども運営委員会「ぼんぼこ隊」の子どもたちが、近くの福祉施設との交流を続けており、毎週1回のカレンダー交換や歌の披露、肩もみ、利用者との遊びなどを通じて交流を深め、かかわりの中から、優しさや思いやりの気持をはぐくんでいます。その交流の一環として、平成21年12月28日には、子どもたちが、施設にしめなわを届けました。

小学1～2年生の子どもたち4人が施設を訪問し、あらかじめ児童会館で作成したしめなわを贈呈したあと、余興として、「お正月」の歌やゲームを披露。最後に年末のあいさつをしてお別れしました。利用者の皆さんも、いっしょに歌を口ずさみ、手拍子をするなど、楽しいひと時を過ごしていました。利用者の一人は、「子どもたちに会えるのが楽しみです。」と話していました。

東札幌児童会館の酒井館長は、「活動し始めた頃は緊張したり、モジモジしたりでしたが、最近では自分たちで『こうしよう』とか『こうしたら、おじいちゃんおばあちゃんが喜ぶと思う』という声も聞かれるようになってきました。日々頼もしくなっています。」と子どもたちの成長のようすを語ってくれました。

ぼんぼこ隊は今日も元気に活動を続けています。



## 札幌市子ども参加 札幌市 子どもの権利委員会

札幌市では、子どもの権利条例に基づき、市の子ども施策について調査・審議等を行う「札幌市子どもの権利委員会」(千葉卓委員長)が昨年11月に設置されています。



この委員会は、学識経験者や学校関係者、地域関係者、公募委員など、14人の委員で構成され、小栗佳姫さん、井戸あゆみさん、中出百香さんの3人の高校生も委員として参加しています。

### 3人から一言

小栗委員「まちづくりの取組に参加するのは、この委員会が初めてですが、会議の場で自分の意見を伝えることができるように、しっかりと考えていきたいと思っています。いじめなどの問題の解決に、少しでも役立つように頑張ります。」  
井戸委員「札幌が、生まれてから大人になるまで、子どもが安心して育つことができるまちになってほしいと願っています。家庭

委員会は、現在、札幌市が進めている「(仮称)子どもの権利に関する推進計画」の策定に向けて検討を行っており、これまでに3回の委員会を開催するなど、活発な議論を続けています。

でも、学校でも、子どもと大人がより良い関係になるにはどうしたらよいか、考えていきたいと思っています。」  
中出委員「不登校を解決したいと思っています。不登校は子どもだけの問題ではなく社会全体の問題だと思うので、多くの人にもっと関心を持ってほしいと感じています。この委員会に参加して新しい発見ができることを楽しみにしています。」